

憲法しんぶん 速報版
 発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
 ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2019年3月18日（月）

NO. 944号

本号3頁

京都市の自衛隊に宛名シールで提供 大問題！

京都市が自衛隊員募集に協力し、名簿を宛名シールして渡していたことが大きな問題となっています。この宛名シール問題が、京都新聞で発覚したのは今年の11月中旬頃です。そもそも昨年5月に自衛隊京都地方協力本部や防衛相から都道府県・市町村長宛てに自衛隊募集の協力要請文等が各自治体に発出されていました。京都市の個人情報審議会でどう扱われていたかが不明でしたが、情報館の資料でようやく市民に明らかになりました。

それによると、市は18・22歳の1万人の名簿を宛名シールで提供することを勝手に決めました。氏名・生年月日・性別・住所の4点。個人情報保護法の基本的は本人の同意無くして提供してはいけないのが大原則ですが、「ただし、法令の定めのあるときは」と書いてあります。一方で、自衛隊法施行令で「必要な報告又は資料の提供を求めることができる」としているだけで自治体の義務ではありません。ましてやシールで出すというのはおかしい。なぜ、京都市はシールにしたか、市は「紙や電子媒体にした場合、名簿が残ってしまうので、シールの方が望ましい」と言っています。

市民団体が市と市議会各党・会派に申し入れ

この宛名シール提供に怒った市民団体が11日、市と市議会各党・会派に申し入れを行いました。内容は、①個人情報提供を拒否したい市民のシールは除外するという、市の対応を該当年齢全員に告知すること。②自衛隊京都地方本部と市が取り交わす予定の協定書を開示することなど。

しんぶん赤旗の報道によりますと、日本共産党を訪問した「わたしの個人情報を守って！市民の会」の人たちに、玉本なるみ市議が対応。「市は当初、市民から提供停止の申請があっても『提供する』と議会で答弁していましたが、いまは『除外する』と態度を変えました。1月中に提供するはずが延期になっています。みなさんの運動が市政と世論を動かしています」と激励しました。

自衛官募集ポスター撤去＝「不適切」批判受け－滋賀

防衛省自衛隊滋賀地方協力本部（大津市）が作成した自衛官募集ポスターについて、掲載された女性キャラクターのスカートから下着が見えており、セクハラに当たるとの苦情が寄せられていることと報道されています。

ポスターはA4判で、昨年10月に民間会社と提携して作成されました。アニメの女性キャラクター3人がミニスカート姿で跳躍する様子が描かれていますが、うち2人のスカート内に下着が見えるとの指摘がありました。

昨年11月から同本部の地域事務所などに掲示し、ホームページにも掲載しましたが、その後「セクハラではないか」「見るに堪えない」などの苦情が寄せられました。

同本部の担当者は当初批判が寄せられても「アニメの絵柄をそのまま使用しており、着衣は下着ではなくズボンという設定だ。今後も掲載を継続する」としていましたが、2日までにポスターを撤去しました。

どうして自衛隊員の募集に下着の見える女性のアニメを使うのか。自衛隊員へ応募する青年は、「下着が見えるアニメが好き」と思っているからでしょうか。不見識極まりありません。なお、同本部は2015年に、高島市内6中学校に「自衛官募集中！気軽に問合せください！」と印刷したトイレトペーパーを配布し、新婦人などの抗議を受けて回収しました。



「国民の知る権利を奪うな」と首相官邸に抗議！

MIC（メディア産業の労働組合が集まる日本マスコミ文化情報労組会議）は14日、官房長官会見での「特定記者」に対する質問制限・妨害に抗議して、「私たちの知る権利を守る首相官邸前抗議行動」を行いました。参加したジャーナリスト、市民は、「ファイト・フォー・トゥルース（真実のためにたたかえ）」「報道の自由守れ」「記者いじめやめろ」と声を上げました。

主催者の南彰MIC議長は「マスコミの労組には幅広い考えがある。しかし、為政者のうそは許さないことで共通している」と強調し、「事実誤認」だとレッテルを貼った辺野古埋め立ての赤土問題について「現場を見れば、赤土が広がっているのは明白だ。記者の質問に政府見解の枠をはめることは一刻も早くやめさせないといけない」と訴えました。

質問妨害を受けた当事者の東京新聞の望月衣塑子記者も駆けつけ、「沖縄紙など他紙の記者にまで質問制限がおよんでいる。看過できない」と語りました。

現場からの発言では、当該の中日新聞・東京新聞の両労組、毎日新聞、共同通信、中国新聞、神奈川新聞の組合員が「私たち記者が問われている。徹底的に問い続ける」「記者同士の分断を許さない。読者、市民と連帯する」とスピーチしました。

連帯あいさつで、梓澤和幸弁護士は「真実を求める声をあげよう」と呼びかけ。「メディアで働く女性ネットワーク」の林美子代表世話人は「昨年、財務次官による女性記者へのセクハラもあった。記者の連帯ではねかえそう」と発言。国境なき記者団の日本事務局の瀬川牧子さんが抗議声明を読み上げました。日本共産党の田村智子副委員長（参院議員）らがあいさつしました。



改憲の動き三つ

◆野党 憲法審査会の開催に応じるな！

立憲民主党や国民民主党など野党の衆院憲法審査会幹事らは13日、国会内で会談し、平成31年度予算が成立するまで憲法審開催に応じない方針で一致しました。立民の山花郁夫・野党筆頭幹事は「4月の2週目ぐらいが相場だ」と記者団に述べました。

しかし、今国会では、自衛隊員の募集にかかわる安倍首相の改憲にかかわるウソ発言のもとでは、憲法審査会ではまともな論議に入れるわけがありません。今、通常国会では開催させないことが大事ではないでしょうか。

◆自衛隊明記「国防の根幹」と安倍首相と答弁

共産党の山下芳生氏への答弁で、安倍首相は13日の参院本会議で、憲法改正に関し「国民のため命を賭して任務を遂行する自衛隊員の諸君の正当性を憲法上、明文化し、明確化することは国防の根幹に関わることだ」と述べ、9条への自衛隊明記の必要性を改めて強調しました。

◆姑息にも下村氏が衆院文部科学委員会で自民改憲案説明

自民党の下村博文憲法改正推進本部長は13日の衆院文部科学委員会で、党が昨年まとめた改憲案4項目のうち「教育無償化・充実強化」の条文案を説明しました。自民党は国会の憲法審査会への改憲案提示を目指していますが、憲法審開催のめどは立っていません。下村氏は憲法審査会で条文案の瀬筒明ができないためか、姑息にも文科委員会の質問者として党の案を先んじて紹介しました。自民党案は憲法26条に3項として「経済的理由にかかわらず教育を受ける機会を確保」などと明記していますが、冒頭に「国は」を入れて、教育への国家介入・国家統制に導く危険な条文案です。下村氏は、条文案を読み上げ「憲法を議論すべき時に来ている」などと訴えました。



埼玉弁護士会「自衛隊明記案に反対する」パレード

埼玉弁護士会は13日、憲法9条への「自衛隊明記案に反対する」パレードをさいたま市で行いました。パレードには弁護士や市民ら190人が参加しました。

パレード前の集会では、島田浩孝会長は、国会では改憲勢力が3分の2以上を占め、数の力で法案を押し通すという国会運営が続いていることから、改憲が一気に進められる危険もあると指摘。「今年は正念場です。自衛隊明記の改憲を断念させるまで頑張りましょう」と呼びかけました。

同弁護士会の憲法改正問題対策本部長代行の山下茂弁護士は「兵器を買って、軍備を増強するやり方は、戦争をなくす方策としては愚策です」と訴えました。

集会後、埼玉県庁を出発した参加者は「平和憲法を守ろう」「戦争できる安保法制はいらない」とコールしながら、JR浦和駅までパレードしました。

埼玉弁護士会は1月25日に川越市、2月22日に熊谷市、3月4日に越谷市で同様のパレードを行い、のべ400人以上が参加しています。



写真は熊谷市でのパレード

各地のとくみ

新日本婦人の会

<新婦人しんぶん 3月14日号より>

兵庫 憲法ビンゴで楽しく

加古川支部 松本真紀さん

「あすわか（明日の自由を守る若手弁護士の会）」が作った遊んで学べる「憲法ビンゴ」をみんなで楽しみました。

ビンゴシートに番号を書いてスタート。条文カードを引いて読みます。「9条、もう戦争しません。軍隊も持ちません」「20条、どの神様を信じてもいいし、もちろん信じなくてもいいよ」などの分かりやすい条文内容に、「ほんまや！そのとおり！」「できてへんな～、日本は…」など、にぎやかにツッコミながら、豪華景品をねらって一喜一憂。カードが2セットあればカルタや神経衰弱もできるので、次はどうやって遊ぼう、と考えるのも楽しいです。

愛媛 広島「以島」を学んで

県本部 酒井たみさん

2月21日、平和学習会を開きました。12人が参加し、手作りのケーキをいただきながら、広島出身の会員に「にのしま」の話を聞きました。明治以降、軍都・広島を支えた陸軍の大規模施設があった似島は、被爆者が運ばれ、遺体の埋葬が間に合わず、多くが置き去りにされた島です。今もあちこちに遺骨が眠っているそうです。

最後に、みんなで「にのしま」という歌を歌いました。愛媛からも近い島なのに初めて聞くことばかりで、一度みんなで行ってみたいと思いました。

参加した方には、松山空襲や戦後の食糧難を経験され方もいます。二度とこんな時代を繰り返さないよう、体験を次の世代に語り継いでいきたいと思います。



和歌山 駅前で3000万人署名の「署名大行動」を実施

「安倍9条改憲NO! 『3000万人署名』和歌山市民アクション」と「憲法九条を守るわかやま県民の会」は9日、JR和歌山駅前で3000万人署名の「署名大行動」を実施しました。日本共産党の前ひさし参院和歌山選挙区候補、松坂みち子県議候補らが参加しました。

行動では「うたごえ9条の会」が演奏。戦前、戦意高揚に利用された紙芝居を平和の使者にと活動する和歌山紙芝居研究会の池田光子さんが和歌山市出身の絵本・紙芝居作家、まついのりこさんの「みんなでぼん～」を上演しました。参加者らは、安倍首相が憲法に自衛隊を書きこみ、大手を振って戦争に参加する戦争する国づくりを進めていることを批判。今求められているのは改憲ではなく、憲法を守り生かし、世界の平和に貢献することだと訴え、署名への協力を呼びかけました。道行く市民らが応じていました。

